

本園の教育目標

1. 元気でがまんの出来る子 2. お友達と仲良く遊べる子 3. きまりを守れる子

評価基準(点数表示)

A. 充実してる B. 大体充実している C. あまり充実していない D. 全く充実していない

	評価内容	自己評価(教師)	自己評価	評価	学校関係者 評価委員会
					意見
1	保育の 計画性	<ul style="list-style-type: none"> ・年度初め学期初めに学年目標や教育課程等を見直し、クラスのテーマに沿った経営案を作成している。子供の様子を予測し、成長過程に沿った計画を心掛けている。 ・昨年改善策が求められた満3歳クラスは今年度と昨年度の教員同士が連携を取り、反省を活かした保育が出来るような計画をし、複数担任で話し合いながら進めることが出来た。 ・評価や反省に於いては様々な視点からの意見も取り入れていける様な工夫も必要。また計画したものを実践する上では、行事等の兼ね合いもあり、スケジュールの余裕があってもいいのでは。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・子供が主体的に活動できるようにクラスでテーマを掲げて生活し、子供の興味が向くように保育を計画し進めていくことは良いと思う。 ・行事等で先生たちが連携していて、活動を進めていく上でも個々の関わりをする先生、全体を進める先生と計画的に行っていることが伺える。
2	・保育の 在り方 ・幼児へ の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの教員がプロ意識を持って行動できるよう園内でも定期的に声を掛けている。 ・教師と子供という関わりではしっかりとした思いを持って対応する意識があるものの、教師同士の連携や協力という部分では互いの話し合いや、意見のすり合わせをもっと行う必要があると思われる。 ・今年度は異年齢の交流も意識して取り入れた場面が見られ、昨年の反省が活かされたと評価できる。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちが毎日楽しそうに幼稚園に行っている姿を見て、充実した生活を送っていると感じている。 ・土日など休みの日も、幼稚園行きたいと言っている。それが大切に思う。 ・幼児教育を考え、文字や数字に関しての扱いで先取り教育をするのではなく、文字遊び数字遊びを生活の中でたくさんしてもらいたい。 小学生になったらドリルなどで最初から覚えていくため。
3	教師と しての 能力や 良識 ・適正	<ul style="list-style-type: none"> ・今年は保育に注目が集まる話題もあった為、より一層資質や良識等について考える機会が多くあった。その中で個人個人が自分自身を見つめ直せるよう園としても呼び掛けた。職員の間でも意識が強まったように感じる。今後も自覚を持った行動、言動を期待し、高め合っていけるような園でありたい。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・先生同士の連携が取れており、安心して預けることができています。 ・先生たちの役割分担がわかり、機能している。 ・不適切保育などが騒がれた年だが、幼児主体ということを考え、今後も適切な保育を行っていただきたい。
4	・保護者 への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者からの話や疑問等に対しては担任、又場合によっては理事長、園長が早急に対応し解決に向けて改善策、園の考えなどを伝え理解を求めながら対応してきた。また延長保育でも保護者から話や相談もあったので、連携を取りながら情報共有に努めた。一人ひとりの意識も高い評価が表れているので、今後も真摯に対応していく。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・日々保護者とは連携して、ほぼ毎日顔を合わせており、その中で情報共有している。 ・保護者の要望や意見に関して、対応できるものできないものを話し合っている。
5	・地域の 自然や 社会との 関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年同様、地域との関わりや関心は低めの評価が多かった。コロナ禍でなかなか交流の場を持つ機会は難しい部分もあるが、自然に対しては園舎裏の田んぼや散歩などで触れる機会を作っている。地域への関心も深めていけるよう、情報収集等積極的な関わりを考えていきたい。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校との関わりもコロナ対策をしながら徐々に増やせると良い。 ・運動会は今後も小学校の校庭をお借りして行えると良い。練習などでも学校へ行くことで刺激になっている。
6	研修と 研究	<ul style="list-style-type: none"> ・園内研修、今年は保育の悩み・すぐ実践できる制作、教師同士のレクリエーション等様々な内容でスキルアップや相談し合える関係性の向上が図られた。コロナ禍で外部の研修の参加が難しかったので、園内研修の内容充実が求められ、園内研修委員を中心に計画的に行われた。研修に参加する姿勢に対しては消極的な回答も見られたが、反省点を踏まえ来年度も引き続き行っていきたい。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度はリモート研修が充実していたことから、園外の研修も受けることができていた。 ・園内研修を年10回行っている中で、教材研究や保育の引き出しをどんどん増やしてもらいたい。 ・スマホの扱いに関して、使い方によっては便利なもの。使い方を覚える、使いこなす技術は必要。

今後の取り組み

スマホやタブレットを使うことや文字・数字の触れ方、知育教材など、その他新しいことを取り入れることは良いことだが、新しいことを取り入れたり行ったりすることで、今までのものを削ったり減らしたりしなければならない。その中でこの幼児期の教育に関して、何が必要なのか優先は何かを精査していくことが大事である。取り入れ方によって、幼児の主体性や興味の持ち方や展開が変わってくると思う。

今年度も行っていた絵本の日に関しては、家庭の過ごし方を考える時間になったり、子供自身が遊びを考える時間にもなるため、今後も継続して行っていきたい。また読み聞かせボランティアに関しても、コロナの関係もあるが保護者が保育に関わる良い機会になるため行っていければと思う。